

訪日外国人旅行者の快適な日本体験のための環境整備に関する一考察

入れ墨（タトゥー）がある人の公衆浴場利用の視点から

藤岡美香子\*

A Study on Making Better Environment  
for Foreign Tourists' More Comfortable Time in Japan  
Through People with Tattoos and Bathing in Public Bathes

by  
Mikako FUJIOKA

(Received: October 31, 2017)

Abstract

Since the Japanese government declared that Japan would make a tourism nation under the Tourism Nation Promotion Basic Law in 2007, the number of tourists visiting Japan has been growing rapidly. It was about 5.2 million in 2003, but reached 10 million in 2013 and 24 million of the end of 2016. This trend is expected to continue. However, there have been reports concerning troubles occurred because of the growing number of foreign tourists, such as the manners in bathing, using toilets, dining and shopping. It seems that many of the troubles happened because of differences in cultures or life styles. One of such troubles is about bathing in public bathes by people with tattoos. In Japan, people with tattoos cannot take public bathes in many cases, while they wear tattoos out of their cultural traditions in some areas or cultures. In order to avoid more and bigger troubles, the Japan Tourism Agency has encouraged both spa operators and foreign tourists to understand each other's cultures. Many operators of public bathhouses and accommodations have hard time deciding how to deal with such cases. This paper analyzed how tattoos are viewed in Japan based on the questionnaire and presents the information that will help to make visit to Japan more comfortable and rewarding both for foreign tourists and Japanese hosts.

---

\*東海大学経営学部観光ビジネス学科専任講師

## 1. 研究の背景と目的

日本を訪れる外国人旅行者の数は、2013 年に 1,000 万人を突破した。その後も、政府が掲げていた「2020 年までに 2,000 万人」という次の目標が、2016 年 10 月末の時点で達成されるほど増加を続けている。2019 年には、ラグビーのワールドカップが日本国内 12 都市を会場に行われ、また 2020 年には、東京オリンピック・パラリンピックの開催も決まっており、今後、訪日外国人観光客の増加傾向が続くことが予想される。

このような状況の中、文化の違いによる様々な問題が生じている。観光客と直接接する業務に携わっている宿泊施設、観光施設、商店、飲食店等の従業員から聞かれる問題は、入浴方法、トイレの利用方法、食事や買い物の際のマナー、公共の秩序維持に関わることなど多岐にわたる。

入れ墨（タトゥー）がある人の公衆浴場やプールなどの公共施設の利用も、その 1 つに数えられる。日本では、反社会的組織に所属している人の入浴を拒否するという理由で、入れ墨（タトゥー）がある人が利用できなくなっている施設が多い。それに対し海外では、民族固有の慣習であったり、宗教的な理由、またはファッションとして、入れ墨（タトゥー）がもっと広く受け入れられている。

2013 年、北海道の温泉施設で、アイヌの団体に招かれたニュージーランドの先住民であるマオリの伝統的な入れ墨を顔に施したニュージーランド人女性が入浴を断られ、入れ墨のある人の入浴を拒否する施設が少なくない現状が問題化した。この件をきっかけに、観光庁は 2015 年 10 月、訪日外国人旅行者が増加する中、同様のトラブルを未然に防ぐため、状況を把握するための調査を全国 3,768 の旅館やホテルを対象に実施した。その結果、「入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を断っている」施設は 55.9%、「入れ墨（タトゥー）がある人の入浴に関するトラブルがあった」施設は 18.6%で、47.2%の施設が「入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を巡る苦情があった」と答

えている。

温泉入浴は、訪日外国人が日本国内で行いたいことの上位に挙げられている。観光庁による平成 26 年度の訪日外国人消費動向調査でも、地方都市のみを訪問した外国人観光客の 50%が温泉入浴を体験している。観光庁長官は、先の調査結果を発表した会見で、訪日外国人観光客と入浴施設の両方に理解を求め、摩擦を減らしていく方向性を示し、「事務連絡」という形で、ホテルや旅館、温泉など関連施設業界に対応を検討するよう依頼している。

本研究では、入浴施設利用者が、入れ墨（タトゥー）がある人に対してどのような意識を持っているかを調査する。その結果をもとに、日本全体、特に地方都市の経済に大きな影響を与える訪日外国人観光客が、快適な時間を過ごすための環境を考えることが本研究の目的である。

## 2. 先行研究

### 2.1 日本での入れ墨

山本（2016）によると、出土した埴輪の顔の部分にある線や『魏志倭人伝』などの文献の記述から、古代日本には入れ墨慣行があったと考えられている。集団への帰属を示す目的であったり、呪術的な意味を持ち、通過儀礼的に行われていたようだ。その後、7 世紀後半以降の文献や絵画からは入れ墨が消えるが、江戸時代初期に、再び入れ墨が行われるようになった。しかし、この時期の入れ墨は、とび職や火消し、飛脚など一部の職業に従事する人々の身体装飾として行われ、帰属意識の表れや通過儀礼であった古代とは異なるものであった。いわゆるファッションの 1 つとして認識されていたと考えられ、次第に流行するようになった。しかし 1720 年、幕府は、刑罰の 1 つとして入れ墨を採用し、再犯者の発見や周囲の者への注意喚起の目的で、犯罪者の顔や腕に入れ墨を入れるようになった。これにより、釈放後に入れ墨を見せて周囲を恐喝する者が出てくるなど

したことから、この頃から一般の人が入れ墨を敬遠するようになったと考えられている。

また、古代以降でも、身体装飾ではなく、通過儀礼としての入れ墨が存在した地域はある。ロシアから北海道の地に長く暮らしていたアイヌ民族は、女性が口のまわりや腕に入れ墨を入れる慣習があった。文様により、婚姻の別や出産した子どもの数がわかるようになっていた。しかし、日本政府は現在の北海道の地を征服すると、アイヌ民族に対する同化政策のもと、伝統的な入れ墨や服装、宗教などを禁止し、徐々に独自の習慣が廃れていった。現在は、お祭りや儀式など特別な機会に一時的な入れ墨をするアイヌ女性がいる程度となっている。

一方沖縄には、ハジチ（針突）と呼ばれる入れ墨の文化があった。栗国(2012)によると、女性が、初潮か結婚の前後に指の背から手の甲、手首、ひじにかけて入れ始め、年を取るにつれて文様を拡大したとされている。外敵から身を守るため、成人した女性となった証、死後の世界で幸せになるため、美しくするため、などがハジチを入れる理由だったようだ。この風習も、1879年に琉球国が廃止され、日本の一部である沖縄県となった後、1899年に明治政府により禁止された。

## 2.2 公衆浴場での入れ墨の禁止

山本(2016)は、日本で、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を制限する動きがいつ頃からのものなのかは、詳細な研究が必要な状況にあるとしながら、1940年代には入れ墨お断りの張り紙をする温泉があったと述べている。また、公衆浴場での入れ墨の禁止は、1950年頃からの青少年健全育成条例の制定により、18歳未満の青少年が入れ墨をすることが禁止条項として盛り込まれたこととの関連性を指摘している。

1でも述べたように、温泉や銭湯、旅館などの宿泊施設では、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を断っているところが多い。観光庁が行った調

査によると、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を断っている理由は、「風紀・衛生面で自主的に」が58.6%、「業界・地元事業者での申し合わせ」が13.0%、「警察・自治体などよりの要請や指導」が9.3%となっている。警察庁や厚生労働省に入れ墨入浴拒否の方針はなく、入れ墨に対するイメージから、公衆浴場の雰囲気悪化や秩序の乱れを懸念して、施設が独自に、または業界で申し合わせて禁止していると考えられる。

## 3. 調査

### 3.1 調査項目

調査対象者の性別や年齢、入れ墨（タトゥー）のある人が日本人であるかどうかで、入れ墨（タトゥー）に対する意識が異なる可能性があるとして仮定し、主として下記の3点について質問紙調査を行った。（実際に使用した質問紙は、付録のとおり）

- ・入れ墨（タトゥー）がある人に対する印象（その人が日本人の場合）
- ・入れ墨（タトゥー）がある人に対する印象（その人が日本人でない場合）
- ・入れ墨（タトゥー）がある人が公衆入浴施設を利用することに対する意識

福岡(1993)は、日本社会の構成員を「血統」「文化」「国籍」の3つの要素をもって「日本人」から「非日本人」までの8つに類型化している。本研究における「日本人」とは、その中で「純粋な日本人」と定義されている、血統的に日本民族の血をひき、言語・価値観・生活習慣・生活様式などにおいて日本文化を内面化し、日本国籍を有している人を指すこととする。

### 3.2 調査対象者

質問紙調査に協力を依頼し、九州（熊本県、福岡県、鹿児島県）在住の348人から有効回答を得た。対象者の性別、年代、国籍、公衆入浴施設の

利用頻度は以下のとおりである。

性別： 男性：143人、 女性：205人

年代：対象者の年代毎の人数は下表のとおりである。

表 1. 調査対象者年代別内訳

|    | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | 36  | 27  | 13  | 17  | 20  | 17  | 9   | 4   |
| 女性 | 9   | 32  | 38  | 40  | 29  | 28  | 23  | 6   |

(単位：人)

国籍： 日本：347人

日本以外：1人（中国）

利用頻度： ほぼ毎日：5人

ほぼ毎週：17人

月に1~2回程度：76人

半年に1~2回程度：90人

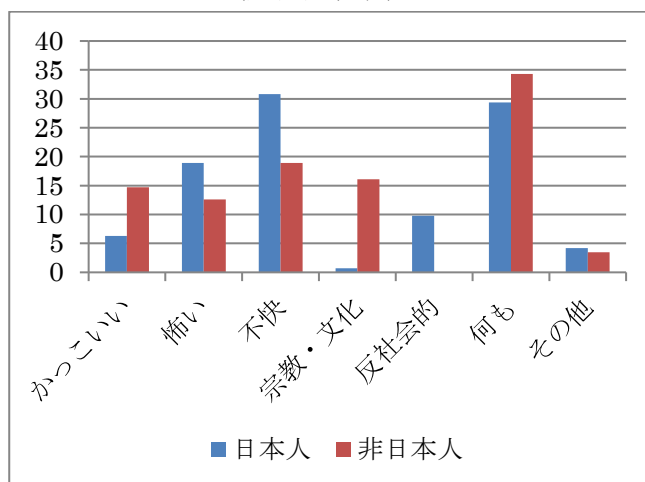
年に1~2回程度：92人

利用しない：68人

### 3.3 結果

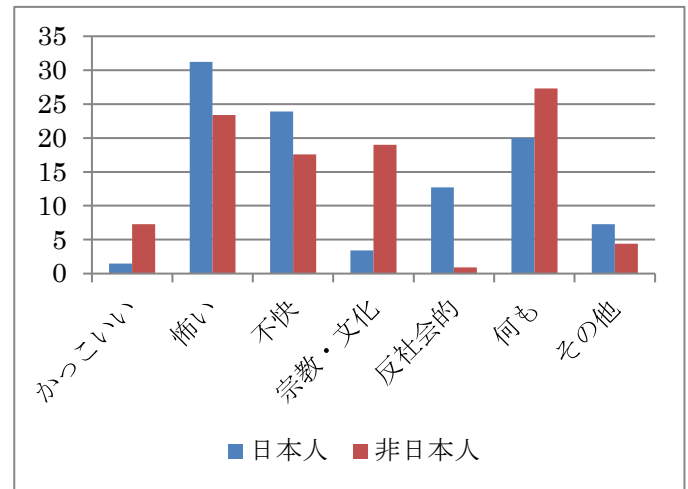
(1) 入れ墨（タトゥー）のある人に対する印象を尋ねた結果は、以下の通りである。

表 2. 入れ墨（タトゥー）のある人に対する印象  
(男性回答者)



(縦軸単位：%)

表 3. 入れ墨（タトゥー）のある人に対する印象  
(女性回答者)

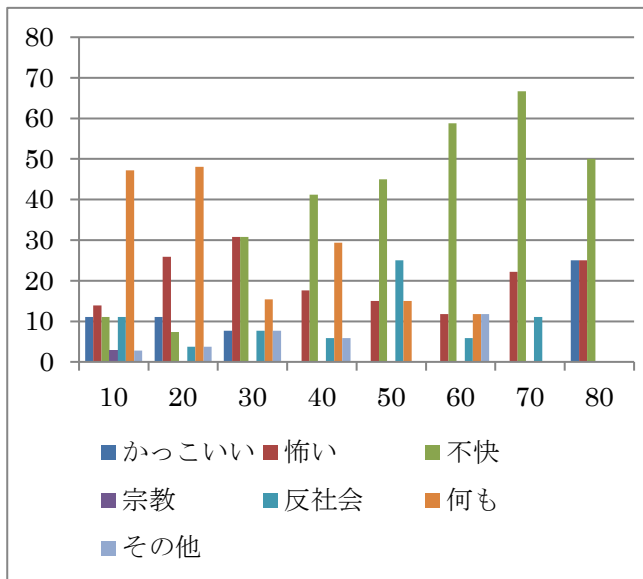


(縦軸単位：%)

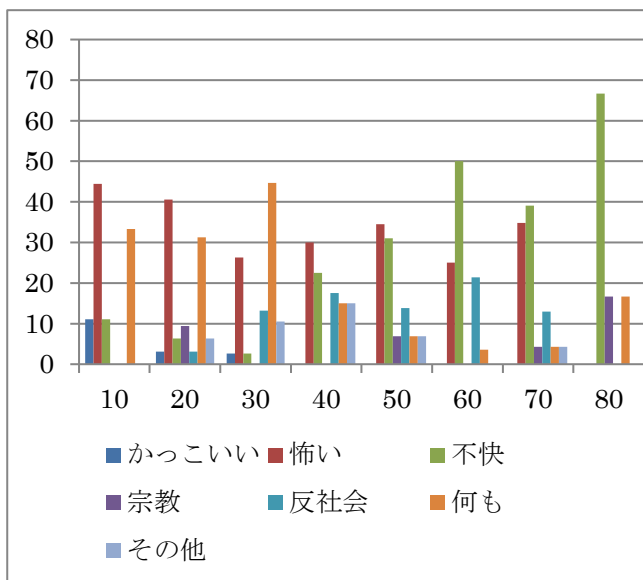
入れ墨（タトゥー）のある人が日本人の場合、男性は「不快である」と感じる人と「特に何も思わない」人がそれぞれ 30.8%、29.4%、続いて「怖い」と感じる人が 18.9%であった。女性は、「怖い」と感じる人が 31.2%で最も多く、「不快である」が 23.9%、「特に何も思わない」人が 20.0%であった。

入れ墨（タトゥー）のある人が日本人ではない場合、男性は「特に何も思わない」人が 34.3%と最も多く、「不快である」が 18.9%、「宗教や文化的な理由があるのだろうか」と考える人が 16.1%、「カッコいい」が 14.7%、「怖い」という意見が 12.6%であった。女性も、「特に何も思わない」が 27.3%と最も多く、「怖い」と感じる人が 23.4%、「宗教や文化的な理由があるのだろうか」と思う人が 19.0%、「不快である」が 17.6%であった。

(2) 次に、入れ墨（タトゥー）のある日本人に対する印象を尋ねた結果を、調査対象者の年代別に示す。

表 4. 入れ墨（タトゥー）がある日本人への印象  
（男性回答者、年代別）

（縦軸単位：％、横軸単位：年代）

表 5. 入れ墨（タトゥー）がある日本人への印象  
（女性回答者、年代別）

（縦軸単位：％、横軸単位：年代）

10 代、20 代の男性は、入れ墨（タトゥー）のある日本人に対して「特に何も思わない」人がそれぞれ 47.2%, 48.1%と最も多かった。30 代では、「怖い」「不快である」と感じる人が、それぞれ 30.8%で最も多く、40 代以上になると「不快であ

る」と感じる人の割合が増加している。女性の場合、10～20、40～50 代では「怖い」と言う人が 30～44.4%と各年代で最も多く、60 代以上では「不快である」と感じる人の割合が高くなっている。また、30 代以下では「特に何も思わない」人が各年代 30～45%存在している。

以上のことから、次のようにまとめることができる。

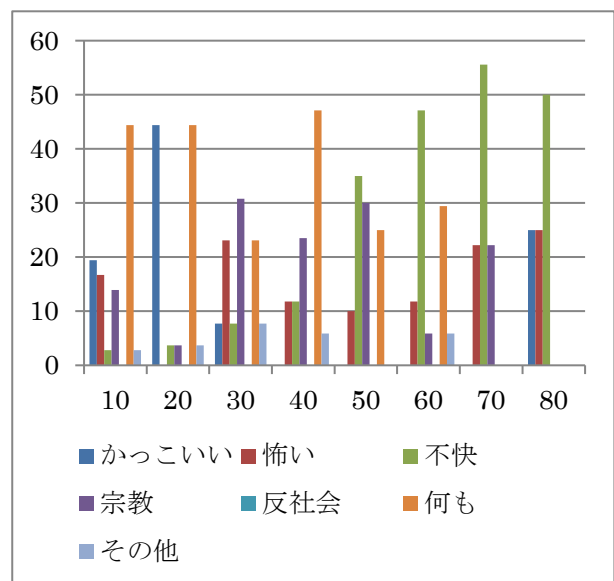
- ・入れ墨（タトゥー）がある日本人に対して、男性は年令が上がるにつれて、「不快である」と感じる人が増える。

- ・入れ墨（タトゥー）がある日本人に対して、若い女性は「怖い」と感じる人が多く、年令が上がるにつれて、「不快である」と感じる人の割合が増える。

- ・入れ墨（タトゥー）がある日本人に対して、男女ともに若年層では「特に何も思わない」人も多くいる。

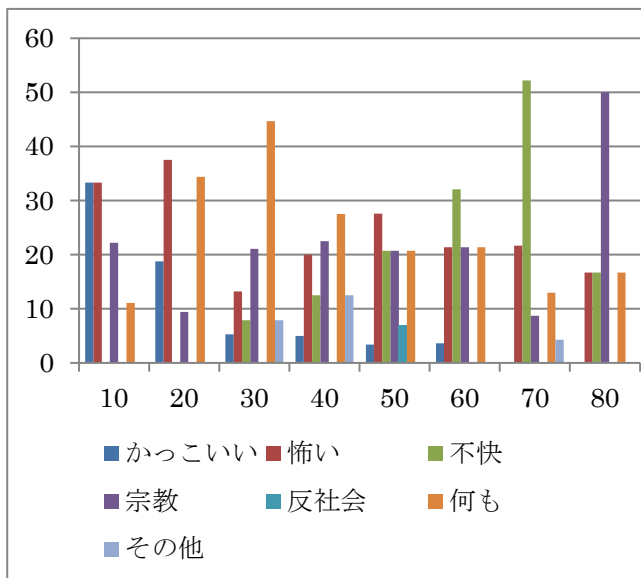
(3) 次に、入れ墨（タトゥー）のある日本人以外の人に対する印象を尋ねた結果を、調査対象者の年代別に示す。

表 6. 入れ墨（タトゥー）がある日本人以外の人への印象（男性回答者、年代別）



（縦軸単位：％、横軸単位：年代）

表 7. 入れ墨（タトゥー）がある日本人以外の人への印象（女性回答者、年代別）



（縦軸単位：％、横軸単位：年代）

10 代、20 代の男性は、入れ墨（タトゥー）がある日本人以外の人に対して、「特に何も思わない」人が 44.4%と最も多かった。20 代の男性は、「かわいい」と感じる人も同様に 44.4%いた。30 代では、「宗教や文化的な理由があるのだろうか」と感じる人が 30.8%で最も多く、40 代では「特に何も思わない」人が 47.1%と最も多い。50 代以上になると「不快である」と感じる人の割合が増加しているが、50 代、60 代の男性には、「特に何も思わない」人も 25%～30%いた。

女性の場合、10 代では「かわいい」「怖い」と感じる人が、それぞれ 33.3%で最も多く、20 代では「怖い」と感じる人が 37.5%、「特に何も思わない」人が 34.4%であった。30 代、40 代では、「特に何も思わない」人の割合が最も多いが、50 代以上では「怖い」「不快である」と感じる人の割合が増加していることがわかる。

(2)と(3)の結果から、次のようにまとめることができる。

・年令が上がるにつれて、日本人でない人の入れ墨（タトゥー）に対しても、「不快である」「怖い」という、日本人に対する場合と同様の印象を持つ人の割合が高くなる。

・入れ墨（タトゥー）がある人が日本人でない場合、日本人の場合よりその印象は多様になる。

・入れ墨（タトゥー）がある人が日本人でない場合、「特に何も思わない」という人が、若年層に限らずどの年代にも一定程度いる。

(4) 入れ墨（タトゥー）のある人が日本人か、そうでないかによって印象が異なるケースが多いことが分かったが、次は、その違いをより詳しく分析したい。

26 種類の相違のパターンがあったが、その中で多かったものが以下の表である。

表 8. 相違のパターン

| 対 日本人    | 対 非日本人   | 件数 |
|----------|----------|----|
| 不快である    | 宗教や文化的理由 | 21 |
| 反社会的組織の人 | 宗教や文化的理由 | 15 |
| 怖い       | 宗教や文化的理由 | 13 |
| 怖い       | 特に何も思わない | 13 |
| 不快である    | 怖い       | 13 |
| 不快である    | 特に何も思わない | 13 |
| 怖い       | 不快である    | 12 |
| 特に何も思わない | かわいい     | 10 |
| 怖い       | かわいい     | 9  |
| 反社会的組織の人 | 特に何も思わない | 8  |
| 反社会的組織の人 | 不快である    | 7  |
| 特に何も思わない | 怖い       | 7  |
| その他      | 特に何も思わない | 6  |

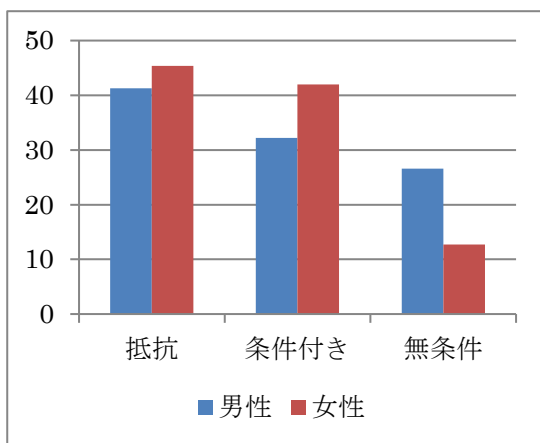
日本人の場合、「不快である」「反社会的組織の人だろうか」「怖い」と思うが、日本人でなければ、「宗教や文化的な理由があるのだろうか」と思うケースが、それぞれ 21、15、13 例あった。

日本人には、「怖い」「不快である」と感じるが、日本人でなければ「特に何も思わない」がそれぞれ 13 例。外国人には「カッコいい・おしゃれ」と感じるのに、日本人には「特に何も思わない」が 10 例、「怖い」が 9 例であった。

同じ入れ墨（タトゥー）であっても、それが日本人の場合はマイナスの印象を持つ傾向にあるが、日本人でなければ、文化の違いによるものだという推測をしたり、特別な印象を持たなかったり、また、カッコいいというプラスの印象を持つ傾向が強いのではないかという(2)(3)での結果が、相違のパターンの分析によっても改めて裏付けられた。

(5) 次に、入れ墨（タトゥー）がある人が公衆入浴施設を利用することに対する意識調査の結果を分析したい。

表 9. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感

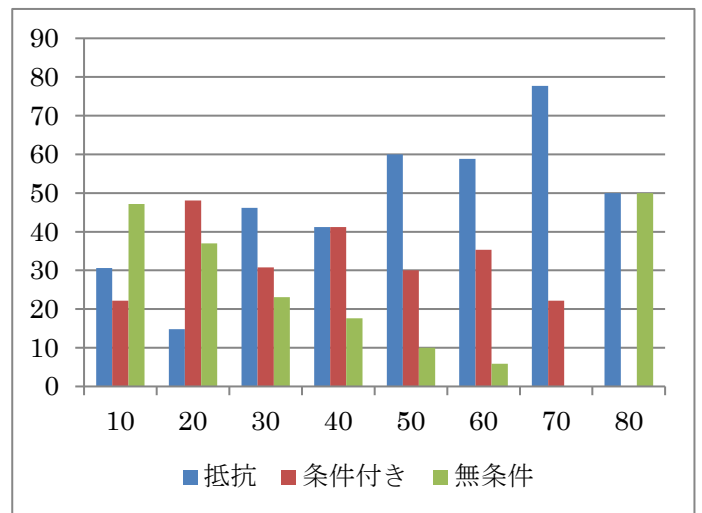


(縦軸単位：%)

質問紙調査では、「抵抗がかなりある」「抵抗がある」「条件付きで構わない」「無条件で構わない」の4つの選択肢から、自分の意識と最も近いものを1つ選んでもらった。しかし、ここでは、入浴を認めるかどうかという観点から、「抵抗がかなりある」と「抵抗がある」を合わせて分析する。男女とも、「抵抗がある」人の割合が40~45%で、

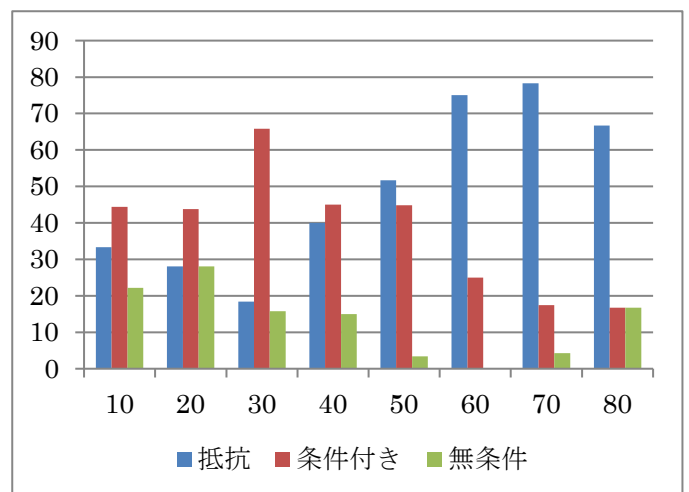
最も多かった。一方、「無条件で構わない」と答えたのは、男性 26.6%に対し、女性 12.7%で、女性のほうが条件にこだわりがある傾向があると言えそうだ。

表 10. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感（男性回答者）



(縦軸単位：%、横軸単位：年代)

表 11. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感（女性回答者）



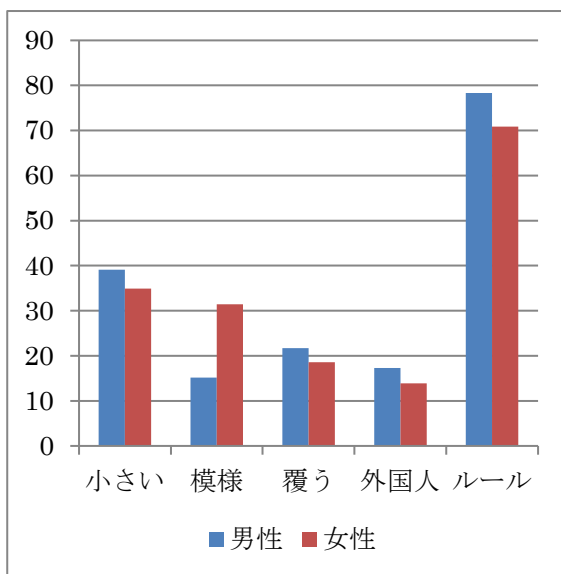
(縦軸単位：%、横軸単位：年代)

入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感を年代別で見ると、10代の男性では「無条件で構わない」人が47.2%、20代男性では「条件付きで構わない」人が48.1%で最も多

い。30代以上の男性では、「抵抗がある」人の割合がそれぞれの年代で最も多く、これはほぼ年齢が上がるにつれて増加している。

女性は、10～40代では「条件付きで構わない」人の割合がそれぞれの年代で最も多いが、50代以上では「抵抗がある」人の割合のほうが多くなり、反比例して「条件付きで構わない」人の割合が減っている。

表 12. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用の条件

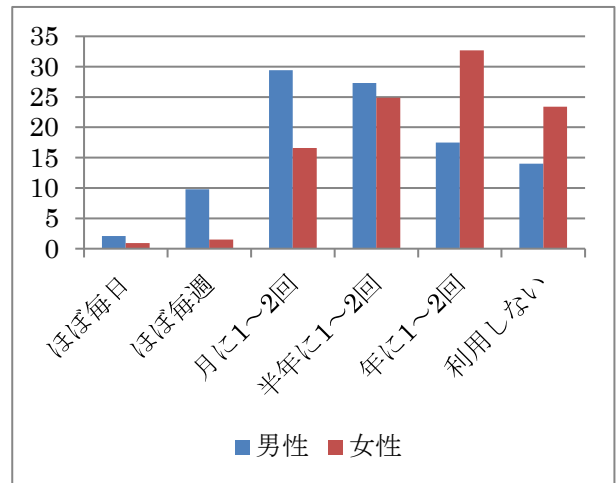


(縦軸単位：%)

表 9にあるように、男性の 32.2%、女性の 41.9% が、条件次第では、入れ墨（タトゥー）のある人が公衆入浴施設を利用しても構わないと答えている。その条件が何であるかを複数回答可で答えてもらったところ、男性は 78.3%、女性は 70.9% が「入浴のルールが守られている」を挙げた。男性は、「入れ墨（タトゥー）が小さい」が 39.1%、「入れ墨（タトゥー）をシールなどで覆っている」が 21.7%であった。女性も 2 番目に多かった条件は「入れ墨（タトゥー）が小さい」ことで 34.9%、次は「入れ墨（タトゥー）の模様が威圧的でない」の 31.4%だった。

(6) 次に、公衆入浴施設をどれくらい頻繁に利用するかで、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴について意識が異なるかどうかを検証するために、本研究の調査対象者の回答を利用頻度毎に分けて示す。

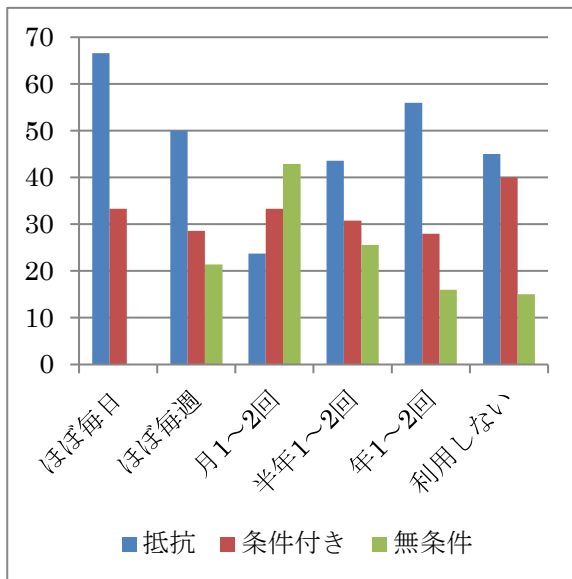
表 13. 公衆入浴施設の利用頻度



(縦軸単位：%)

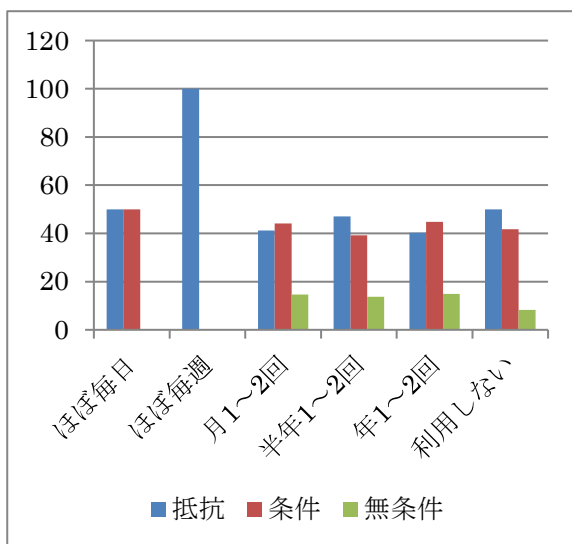
男性は、「月に 1～2 回程度」の利用者が、29.4%と最も多く、次に「半年に 1～2 回程度」の利用者が 27.3%と多かった。女性は、「年に 1～2 回程度」の利用者が 32.7%と最も多く、次に「半年に 1～2 回程度」の利用者が 24.9%と多かった。

表 14. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感（利用頻度毎、男性回答者）



(縦軸単位：%)

表 15. 入れ墨（タトゥー）のある人の公衆入浴施設利用に関する抵抗感（利用頻度毎、女性回答者）



(縦軸単位：%)

男性は、「月に1~2回程度」の利用者を除くと、どのグループにおいても「抵抗がある」人の割合が最も多い。「月に1~2回程度」の利用者は、「抵抗がある」人が23.7%なのに対し、「無条件で構わない」が42.9%と多い。表13にあるように、

男性の中では利用頻度が「月に1~2回程度」の人が最も多く、次いで「半年に1~2回程度」の人もかなり多い。しかし、両グループの入れ墨（タトゥー）がある人の公衆入浴施設利用への抵抗感は全く異なり、利用頻度による抵抗感に特徴はなさそうである。

女性は、「ほぼ毎日」「ほぼ毎週」利用している人が、それぞれ、0.9%と1.5%と非常に少ないため、この2つのグループを除いて比較すると、「抵抗がある人」が40~50%、「条件付きで構わない」と考える人が40~45%、「無条件で構わない」人が13~15%と、利用頻度による抵抗感の違いはほとんどないと言えそうだ。

#### 4. 考察

前項に示された質問紙調査の分析結果について、考察を進めたい。

##### 4.1 入れ墨（タトゥー）がある人に対して、どのような印象を持っているか。

入れ墨（タトゥー）のある人に対するイメージを尋ねた結果を、対象者の性別、年代、入れ墨（タトゥー）のある人の国籍別に分析すると、男女ともに、入れ墨（タトゥー）のある人が日本人か否かで、受ける印象に違いがあった。

しかし、日本人の場合、日本人でない場合のどちらに対しても、「怖さ」や「不快感」を抱く人が多いのは同じで、男性では、「怖さ」よりも「不快感」のほうが強く、女性は逆の傾向が見られた。また、男女ともに若年層には、「特に何も思わない」人も多く、この傾向は、入れ墨（タトゥー）のある人が日本人でない場合にはどの年代でも見られた。

日本人でない場合には、「宗教や文化的な理由があるのだろうか」と異文化への配慮が見られたり、「かっこいい」とプラスの印象を持つ人が増えるのは男女ともに見られる特徴のようだ。

入れ墨（タトゥー）がある人に対する印象は、男女の違いよりも、年代による違いのほうが顕著だと言えるようだ。

4.2 入れ墨（タトゥー）がある人が公衆入浴施設を利用することに対して、どのような意識があるか。

入れ墨（タトゥー）のある人が公衆入浴施設を利用することについて尋ねた結果を、対象者の性別、年代別に分析すると、男女ともに、「抵抗がある」と答えた人の割合が最も多く、約半数を占めた。残りの「入浴しても構わない」と考える人の中では、女性は、「条件付きで構わない」という人が多いのに対し、男性は「無条件で構わない」という人が多い傾向がわかった。

年代別には、男女とも、年令が上がるとともに抵抗感を持つ人の割合が増える傾向があると言えるだろう。

日常的に利用している人とあまり利用しない人とは、意識が異なるのではないかと予想したが、「ほぼ毎日」利用する人の割合が多くなかったこともあり、本研究の結果で見る限り、頻度による意識に特徴的な傾向は見られなかった。

4.3 どのような条件が整えば、入れ墨（タトゥー）がある人が公衆入浴施設を利用しても構わないと思うのか。

「入浴のルールがきちんと守られている」ことを条件に挙げている人が、男女ともに7割を超えていた。タオルを巻いたまま湯船につかったり、湯船に入る前に体を洗わなかったり、といったことも訪日外国人観光客の増加に伴ってトラブルとなることが多い項目である。入れ墨（タトゥー）のあるなしに関係なく、日本での入浴時のマナーをきちんと伝えることが、温泉などの日本の公衆入浴施設で訪日外国人観光客がより快適な時間を過ごすために必要なことだと言える。入浴のルールが守られた上で、入れ墨（タトゥー）のサイ

ズや模様、シールで覆うなど人目に触れにくい配慮がなされているかどうかで、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴がトラブルにつながる可能性を小さくできそうだ。

## 5. まとめ

本研究では、訪日外国人観光客の増加に伴い、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴が問題となり、ホテルや旅館、温泉など関連施設業界が対応に苦慮する中、入れ墨（タトゥー）に対する日本在住者の意識を調査し、訪日外国人観光客により快適な環境を提供することを試みた。

入れ墨（タトゥー）がある人にどのような印象を持つかは、男女による違いよりも、年代による違いのほうが大きい結果となった。また、入れ墨（タトゥー）がある人が日本人かどうかで異なる印象を持つ人も多く、日本人でない場合のほうが、入れ墨（タトゥー）に対する印象も多様で、より寛容に受け止められていることが実証された。入れ墨（タトゥー）がある人の入浴に対しては、40代までの世代では「入浴のルールがきちんと守られていれば構わない」という人も多く、これらを総合的に考えると、日本人利用者の年令が比較的低い公衆入浴施設では、入れ墨（タトゥー）のある訪日外国人観光客がルールを守って入浴できる環境の提供を試みる価値があるのではないだろうか。

公衆入浴施設の利用頻度による入れ墨（タトゥー）がある人への印象にあまり違いはなく、利用頻度と入れ墨（タトゥー）への抵抗感に係る性は見られなかった。固定の利用者が多い施設かどうかでこの問題の対策を考えることは難しそうである。

本研究は、調査対象地域が九州地区に限定されていた。東京や大阪のような大都市圏や、元々入れ墨の文化があった北海道や沖縄では異なる結果も予想される。今後の課題としては、日本国内の調査対象地域を広げて、より規模の大きい調査

が必要だと考える。

また、国王死去後のタイでは、国王への敬慕の気持ちを記すメッセージを掘る一種のタトゥーブームが起きているとの報道があった（熊本日日新聞、2016）。タイから日本を訪れる観光客も増加しているが、受け入れ側の日本人の意識だけではなく、外国人観光客の入れ墨（タトゥー）や入浴に対する意識を調査することも必要だと考える。

まだ課題の残る研究ではあるが、今回の調査に協力してくださった銭湯経営者から「難しい問題で、対応に苦慮している。利用者の意識を知ることができたのは参考になる」とのコメントがあった。今後、訪日外国人観光客と受け入れ側双方にとってのよりよい環境整備を目指し、調査を続けていきたい。

山本芳美（2016）『イレズミと日本人』 平凡社

「海外こぼれ話—敬慕の印」 熊本日日新聞 2016年 10 月 21 日夕刊

More bathhouses allowing tattooed patrons, provided body art is ‘patched’, The Japan Times, Nov. 6, 2015

‘More than 50% of hotels refuse tattooed visitors entry to bathing areas, survey finds’, The Japan Times, Oct. 22, 2015

## 参考文献

栗国恭子(2012)「「針突・ハジチ」の文化と表象—手の記憶—」『電子情報通信学会 IEICE Technical Report』

観光庁 訪日外国人消費動向調査—平成 26 年訪日外国人観光客の地方訪問状況— 2016 年 10 月 4 日閲覧

<http://www.mlit.go.jp/common/001107179.pdf>

高井典子他（2014）『訪日観光の教科書』 創成社

日本文芸社編著(2015) 『Inbound Tourism Handbook 訪日外国人旅行客への対応と心得』日本文芸社

福岡安則(1993)『在日韓国・朝鮮人 若い世代のアイデンティティ』 中公新書

## 入れ墨（タトゥー）に関するアンケート

訪日外国人観光客が増加する中、入れ墨（タトゥー）のある外国人旅行者が温泉等に入浴する際に、様々なトラブルの発生が懸念されるとして、観光庁は、ホテル、旅館、温泉協会に対して、入れ墨（タトゥー）がある外国人旅行者の入浴について対応を検討するよう依頼しています。それに伴い、東海大学経営学部観光ビジネス学科英語コミュニケーション研究室では、公衆入浴施設（銭湯や健康ランド、ホテル・旅館の大浴場など）を利用する立場の方々の意識を調査するためにアンケートを行っております。頂きましたデータは、統計的に処理され、研究の目的以外では使用することはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

該当するものを○で囲んでください。

性別 男 ・ 女

年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代～

国籍 日本 日本以外（国名 ）

銭湯や宿泊施設の大浴場などを利用する頻度

- ① ほぼ毎日                      ② ほぼ毎週                      ③ 月に 1～2 回程度  
④ 半年に 1～2 回程度          ⑤ 年に 1～2 回程度          ⑥ 利用しない

1. 入れ墨（タトゥー）のある人を見かけた場合、あなたが持つ印象に最も近いのは、次のうちどれですか。一番近いものを1つ選んでください。

1.1 その人が日本人の場合

- ① カッコいい・おしゃれ                      ② 怖い                      ③ 不快である  
④ 宗教や文化的な理由があるのだろうか                      ⑤ 反社会的組織に属する人なのだろうか  
⑥ 特に何も思わない                      ⑦ その他（ ）

1.2 その人が日本人ではない場合

- ① カッコいい・おしゃれ                      ② 怖い                      ③ 不快である  
④ 宗教や文化的な理由があるのだろうか。                      ⑤ 反社会的組織に属する人なのだろうか  
⑥ 特に何も思わない                      ⑦ その他（ ）

2. 日本では、入れ墨（タトゥー）がある人の入浴を断っている公衆入浴施設（銭湯や健康ランド、ホテル・旅館の大浴場など）が多いことを知っていますか。

- ① 知っている                      ② 知らない

3. 入れ墨（タトゥー）のある人が、公衆入浴施設を利用することをどう思いますか。

- ① 抵抗がかなりある                      ② 抵抗がある                      ③ 条件付きで構わない                      ④ 無条件で構わない

4. 3で「条件付き」と答えた方は、どのような条件が満たされれば構わないと思いますか（該当するものすべてに○）

- ① 入れ墨（タトゥー）が小さい  
② 入れ墨（タトゥー）の模様が威圧的でない  
③ 入れ墨（タトゥー）をシールなどで覆っている  
④ 入れ墨（タトゥー）をしている人が外国人である  
⑤ 入浴のルールがきちんと守られている

ご協力ありがとうございました。